

授業科目名	母性看護学実習	担当教員	講師 松浦志保 他		
開講年次及び学期	3年 後期	必修・選択の別	必修		
開講形態	演習	時間数	90	単位数	2
授業の目的（概要）					
<p>妊娠・分娩・産褥(育児)期の女性と新生児およびその家族の身体的・心理的課題(問題)を理解し、周産期における援助とその方法を実践的に学ぶ。また、対象が持つ能力や強みを発揮できるための援助やセルフケア能力を高める援助について考え、学ぶ。</p> <p>退院後の子育て期の母児に必要な援助について学び、ソーシャルサポートの視点から母児と家族の支援について考える。</p>					
学修成果（到達目標）					
<p>1. 妊娠・分娩・産褥・育児期および新生児期にある母児とその家族の身体的・心理的・社会的変化を理解したうえで、看護計画を立案し、援助を行うことができる。また、実践した援助について振り返りができる。</p> <p>1) 妊娠期</p> <p>(1) 妊娠期にある女性とその家族の身体的、心理的、社会的変化について理解し、健康課題についてアセスメントできる。</p> <p>(2) 対象の健康課題(問題)から適切な援助を考え、実践できる。</p> <p>(3) 胎児の成長・発育について理解し、アセスメントできる。</p> <p>(4) 妊娠期の異常について理解し、その予防にむけた援助や健康教育計画を立案できる。</p> <p>2) 分娩期</p> <p>(1) 分娩第Ⅰ～Ⅳ期の産婦の身体・心理状態、胎児のwell-beingについて理解し、産婦と胎児の健康課題(問題)についてアセスメントできる。</p> <p>(2) 分娩期の産婦のニーズについて理解し、援助を考え、実践できる。</p> <p>3) 産褥(育児)期</p> <p>(1) 産褥期にある女性とその家族の身体的、心理的、社会的変化について理解し、健康課題についてアセスメントできる。</p> <p>(2) 対象の健康課題(問題)から適切な援助を考え、実践できる。</p> <p>(3) 産褥期に獲得が望まれる育児支援に関する知識・技術について理解し、適切な援助を考え、実践できる。</p> <p>(4) 新しい家族を迎える家族(父・きょうだい・祖父母など)の準備状態をアセスメントし、必要な看護について考える、実践できる。</p> <p>(5) 出産退院後の地域における生活で、母児の健康管理や育児における課題を探り、どのような支援が必要かについて考えることができる。</p> <p>(6) 行政の母子への支援サービス情報について理解し、活用できる。</p> <p>(7) 出生直後から母子分離を強いられた家族への看護について理解できる。</p> <p>4) 新生児期</p> <p>(1) 胎児と新生児の違いを理解し、新生児の母体外生活への適応上の健康課題(問題)をアセスメントできる。</p> <p>(2) 新生児の生理的変化について理解し、正常および正常からの逸脱をアセスメントでき、異常徴候の早期発見ができる。</p> <p>(3) ハイリスク新生児の看護の実践について理解できる。</p> <p>2. 地域における母子支援活動の役割や方法について理解し、医療施設内外の多職種間の連携・協同について理解できる。</p> <p>3. リプロダクティブ・ヘルスにおける看護職者の役割を理解し、保健医療チームの一員としての責任を果たすことができる。</p> <p>4. 母性看護学における倫理的態度について理解できる。</p>					
キーワード					
妊娠, 分娩, 産褥, 新生児, 母親, 子育て, 家族, ウエルネス, セルフケア, 母子支援					
授業の進め方					
実習の進め方を参照					
成績評価の方法（合否基準）					
実習記録40点, 実習への取り組み(実習態度, カンファレンス参加状況)40点, 事前学習レポート10点, レポート(外来見学実習, 母性看護学実習のまとめ)10点とし, 60点以上を合格とする。					
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材					
<p>臨地実習の手引き</p> <p>母性看護学援助論で使用した教科書, 配布資料, 技術演習資料, 提出した演習記録のすべて</p>					
オフィスアワー					
松浦志保(臨床看護学講座) 質問等随時 E-Mail: shihom@med.shimane-u.ac.jp					
モデル・コア・カリキュラムとの関連					
<p>D-1-2) 多面的なアセスメントと対象者の経験や望み(意向)に沿ったニーズ把握</p> <p>D-1-3) 計画立案・実施</p> <p>D-1-4) 実施した看護の評価</p> <p>D-2 基本的な看護技術</p> <p>D-2-1) 看護技術の本質</p> <p>D-2-2) 看護実践に共通する看護基本技術</p> <p>D-2-2)-(1) 観察・アセスメント</p> <p>D-2-2)-(2) 安全を守る看護技術</p> <p>D-2-2)-(3) 安楽を図る看護技術</p> <p>D-2-2)-(4) コミュニケーション技術</p> <p>D-3 発達段階に特徴づけられる看護実践</p> <p>D-3-1) 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践</p> <p>D-5 心のケアが必要な人々への看護実践</p> <p>D-6-3) 保健・医療・福祉チームにおける連携と協働</p> <p>F-1-1) 臨地実習における学修</p> <p>F-1-2) 臨地実習における学修の在り方(特徴)</p> <p>F-2-1) 看護過程に基づくケアの実践</p> <p>F-2-2) 安全なケア環境の整備</p> <p>F-2-3) チームの一員としてのケア参画</p>					

授業計画

<実習施設・場所>

1. 島根大学医学部附属病院 AB病棟3階および産婦人科外来, C棟NICU
2. 比良(ひら)助産院(出雲市今市町1661-19 TEL0853-23-1280)
3. 島根大学医学部附属病院 クリニカルスキルアップセンター 大学会館2階
4. 看護学科棟第1および第2実習室

<実習予定>

時間	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
第1週目	月	学内オリ (8:30~9:00) 第1実習室	病棟オリエンテーション (9:15~) 受け持ち対象者決定 受け持ち挨拶 情報収集、アセスメント	電子 カル テ	病棟実習			母性看技術演習 (15:30~16:45) 第1実習室	新生児観察 技術練習 (16:30~18:00) 第1実習室		
	火	病棟実習 外来実習			病棟実習			母性看技術演習 (15:30~) 第1実習室	電子 カル テ	情報共有 ミニカン ファレンス 記録整理、 指導案作成 (~17:30)	
	水	病棟実習 外来実習			病棟実習						
	木	病棟実習 外来実習			病棟実習			電子 カル テ			
	金	病棟実習 外来実習			病棟実習	中間カンファレンス (13:30~15:00) 感染制御部カンファ室	病棟実習		電子 カル テ		
第2週目	月	受け持ち対象者決定、受け持ち挨拶 情報収集、アセスメント			病棟実習			情報共有 ミニカン ファレンス 記録整理、 指導案作成 (~17:30)			
		病棟実習 外来実習									
	火	病棟実習 外来実習			病棟実習			電子 カル テ			
	水	病棟実習 挨拶 (~9:30)	最終 カンファ レンス								

学内

※祝祭日の関係や実習開始が第1週目の午後からになる場合はこの限りではない。

<実習オリエンテーション>

各自、実習初日までに、「臨地実習の手引き」を熟読してきてください。わからなかった箇所、確認したい箇所について質問を受ける形で、オリエンテーションを行います。質問がなければ、手引きに記述されている内容について、改めて説明はしません。

<実習内容>

1. 病院実習(島根大学医学部附属病院)
 - 1) 原則として1組以上の母子を受け持ち、看護過程を展開する。
 - 2) 妊婦健康診査, 母乳外来, 2週間健診, 1か月健診などの見学実習を行い, 実習レポートを提出する。
2. 助産院見学実習(今年度は中止とする)
 - 1) 開業助産師から施設や看護活動について説明を聞き, その後意見交換を行う。
3. 妊娠・分娩・産褥・育児体験聴講実習(1月中旬以降)
 - 1) 子育て中の母親に妊娠・分娩・産褥期を振り返ってもらい身体的・心理的・社会的変化について語ってもらう。
また育児期に受けた行政の母子支援サービスなどについても語ってもらい, 看護職者としての気付きや必要とされる支援についてレポートする。

<実習の進め方>

1. 原則、学生2名で1母子を受け持つものとする。
2. 受け持ち対象は褥婦及び産婦とし, 受け持てる対象がない場合は, 産婦人科外来での妊婦健康診査や母乳外来, 2週間健診, 1か月健診などの保健指導をメインとした見学実習を行う。
3. 実習初日に受け持ち対象を決定し, 看護計画立案のための情報収集を行う。
4. 受け持ち対象が決定した学生は, 可能であれば次の日の朝までに看護計画を立案する。
5. 実習行動計画(様式11)については, 看護計画を基に記述し, 受け持ち患者への朝の挨拶や電子カルテから情報収集を行う中で実施可能か判断し, 必要時は目標, 計画を修正する。

授業計画

6. 毎朝、当日と前日の実習行動計画(様式11)を教員に提出し、当日の看護目標及び行動計画について指導を受け、修正する。これを臨床実習指導者あるいはその日の受け持ち助産師・看護師に発表し、指導を受ける。
7. 実習中に得られた情報や観察事項については全て臨床指導者に報告する。
8. 受け持ち妊産褥婦、新生児へのケアの実践(観察も含む)では、必ず臨床指導者もしくは担当教員に同行を求める。
9. 保健指導を計画・実施する際には、以下の通り行うこと。
 - (1)母親学級テキストの内容を事前に熟読する。
 - (2)保健指導計画案を立案し、担当教員に指導を受ける。
 - (3)臨床指導者に指導日の前日の正午までに保健指導計画案を提出し、助言をいただく。受け持ち対象に渡すパンフレット・リーフレットを作成する場合は、必ず期限を守る。
 - (4)保健指導は臨床指導者の指導の下で実施する。
10. 記録物の修正については、赤字で行い、修正した箇所の記録を消さない。
11. 受け持ち対象者が退院した時点で、受け持ち対象がいる場合は、2組目の受け持ち実習を開始する場合もある。
12. 分娩見学実習に関しては、18時頃まで実習時間を延長することがある。

<カンファレンス>

カンファレンスの進行については、必ず学生間で事前に話し合いを行い、主体的に行うように務める。

1)カンファレンス I

- (1)目的:看護過程の展開を振り返り、次週実習の自己の実習課題について明らかにする。
- (2)方法:ケースカンファレンス
- (3)資料:受け持ち事例の看護過程をA4用紙1枚程度にまとめる(記録様式12)。
- (4)資料提出:第1週金曜日8:30(時間厳守)に担当教員に提出

2)最終カンファレンス

- (1)目的:2週間の実習を通して学んだこと及び実習目的に対する達成度や課題を発表することにより、自己の看護を振り返り評価する。
- (2)方法:目的に沿った内容でカンファレンスを行う。2週間の実習を振り返り、考えを整理して臨む。
- (3)場所:原則として看護学科第1実習室
- (4)資料:目的に沿ったカンファレンス資料を各自準備すること。事前提出は不要。

<実習中の記録について>

- 1)「事前学習レポート」は、実習初日の第1週月曜日の8時30分に提出する(事前学習レポートの内容については実習の手引き「VI. その他」を参照)。
- 2)受け持ち事例の記録(母性看護学実習記録様式1~11のうち該当する記録様式)は、毎日提出する。
- 3)母性看護学実習記録様式11は、毎日記載してくること。前日分の記録様式11は、翌朝に当日の記録様式11と一緒に提出する。
- 4)上記2)と3)の記録は、その日のケアプラン発表後、担当教員が指示した所定の場所に提出する。

<実習記録の最終提出>

記録一式を、実習終了翌週の月曜日13:00(時間厳守)までに、担当教員へ直接提出する。提出期限の延長は原則として認めない。

※個人情報保護のため実習中の記録用紙は、紙ファイルに必ず綴じて持ち運びし、ファイルから外してはならない。